

## 大阪インターナショナルチャーチ

2013/6/16

ジョセフ・トッティス牧師

ヤコブ3:1-18

ヤコブ 3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、**私たち**教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

まず、心配しないでください。ここでイエスが指しておられるのは、英語や数学などの教師ではありません。神のみことばを教えようとする者たちのことです。ここで注目すべきは、ヤコブが警告を発したとき、自分自身を含んでいる点です。

「ご承知のように、**私たち**教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。」

この「私たち」には「私」も含まれます。

なぜ私は厳しい裁きを進んで受けようとするのでしょうか。誰が格別厳しいさばきなど望むでしょう。神のみことばを教えたいと願う人は、次のどれかでしょう。頭がおかしい、本当に神から召されている、またはナルシスト。ナルシストとは、自己愛に陶酔する人で、人前に出たい、人に注目されたい、人から必要とされる重要な人物だと思いたい人のことです。

神のみことばを教えることは、語学や歴史、数学といった他の学問を教えるのとは違います。もし誤ったことを教えたとしても、他の学問の場合は誤った教えの影響は大きくありません。一方、神のみことばの教師が誤った教えをした場合、聞き手が永遠を過ごす場所を左右してしまう可能性があります。そんな責任を誰が負いたいでしょうか。

先ほども言ったように、ナルシストか、頭のおかしい人、もしくは、本当に神からみことばを教えるように召された人でしょう。

使徒ペテロは、そのような大きな責任を与えられた人でした。イエスが裏切られた夜、ペテロはイエスを3度知らないと言いました。その話を皆さん覚えておられるでしょうか。イエスは死からよみがえると、シモン・ペテロの前に現れてくださいました。それは、彼を立ち直らせるためであり、ある質問を3度繰り返し尋ねるためでした。3度知らないと言ったことへの対応だったかもしれません。問いかけはこのようなものでした。

**ヨハネ 21:15** 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「**ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。**」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「**わたしの小羊を飼いなさい。**」

**ヨハネ 21:16** イエスは再び彼に言われた。「**ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。**」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「**わたしの羊を牧しなさい。**」

**ヨハネ 21:17** イエスは三度ペテロに言われた。「**ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。**」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいいさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「**わたしの羊を飼いなさい。**」

繰り返し言いますが、これは大きな責任です。そして、神の羊を飼って牧するためにペテロは大きな犠牲を払いました。

**ヨハネ 21:18** まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」

**ヨハネ 21:19** これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現すかを示して、言われたことであつた。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

ペテロは皇帝ネロによって十字架刑に処せられたと言われています。また伝承によると、自らの申し出により、十字架に逆さに掛けられたといひます。イエス・キリストと同じかたちで十字架にかかるのは、めっそもないと思つたからだそうす。

イエスに従う代償は何でしょう。それは死です。どういふことでしょうか。これは私の言うことではなく、イエスのおっしゃることです。イエスはこうおっしゃいました。

**マタイ 16:24** それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思ふなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

十字架はもちろん死の象徴です。私たちが日々自分に死ぬようと、イエスはおっしゃいます。自分の野望、目標、願ひ、意志を殺して、イエスに従うのです。

**マタイ 16:25** いのちを救おうと思ふ者はそれを失ひ、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。

つまり、クリスチャン人生の中心は私たちではなく、神がすべてだといふことです。これこそ、何につけても神のしもべが持つべき正しい動機です。これ以外の動機には重々気をつけなければなりません。神のみことばを教える教師たちは、格別厳しいさばきを受けるからです。多く与えられたものは、多くを求められるからです。「主よ、あわれんでください。」

**ヤコブ 3:2** 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

ここでもヤコブの正直さがあらわれています。「私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。」自分自身を含んで話しています。

失敗をする点として、私たちに共通するものに、言葉が挙げられます。この点がなぜ共通の悩みだとわかるかといふと、ヤコブがこのように言っているからです。

「もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、…完全な人です。」

今日ここに完全な人はいますか。

**ローマ 3:10** それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。**ひとりもいない。**

ひとりもいません。みんな今までに後で後悔するよふなことを言ったり書いたりしたことがあります。手話を使って言ってしまったといふ人もいるかもしれませぬ。

もし、今までそんなことは一度もないといふ人も、必ずいつかそういう日が来ます。

**ヤコブ 3:3** 馬を御するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。

ヤコブ 3:4 また、船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによつて、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。

ヤコブ 3:5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言つて誇るのです。ご覧なさい。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。

ヤコブ 3:6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。

ヤコブ 3:7 どのような種類の獣も鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられています。

ヤコブ 3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

ヤコブ 3:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。

子どもに教える英語の言葉遊びのひとつに、いじめられても気にせず、仕返しなどしないように良い子でいましょうと教えるものがあります。その内容はこのようなものです。  
「棒とか石ならけがをするけど、悪口なんかには傷つかない！」

本当にそうでしょうか。そんなことはありません。言葉は人を傷つけますか。もちろん、傷つけます。

言葉は、肺から口を経て息を吐く際に出る単なる音ではありません。言葉には力があります。神はご自身のことばの力でこの世を創られました。私たちの言葉にも力があります。それは、神のかたちに創られたからです。地球上には無数の生物がいますが、話し言葉によって意思疎通をするのは人類のみです。言葉を使う能力は神からのものであり、他に例を見ない力強い賜物です。

私たちの言葉は賜物ですが、建設的にも破壊的にも使うことができます。また、人を自由にすることも縛ることもできます。  
箴言の著者はこう言います。

**箴言 18:21** 死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人はその実を食べる。

言葉はとても重要なので、主イエス・キリストの御前に立つ日、私たちは自分の言ったことについて申し開きしなければなりません。  
イエスはこのようにおっしゃいました。

**マタイ 12:36** わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。

マタイ 12:37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」

十戒の9番目はこう語ります。

**出エジプト記 20:16** あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

これは私たちが思う以上に破られることの多い戒めです。中傷や噂話、他人の間違った印象を作り出す、他人の行為の動機を勘ぐるなどです。

中傷・・・根拠のない悪口を言い、他人の名誉を傷つけることです。中傷によって落ちた評判は二度と回復できないかもしれません。これによって、一生の苦しみを与える可能性もあります。

噂話またはゴシップは、旧約聖書には「秘密を暴く者」と定義されています。噂話をする人とは、ある人についての情報を得て、関係のない人にばらす人です。

噂話をする人は、人をこきおろすことで自分の評価を上げようとします。他人の欠点や失敗について話したり、本人の了承を得ずに人に知られたくないような恥ずかしい内容をばらしたりします。

**箴言 16:28** ねじれ者は争いを巻き起こし、陰口をたたく者は親しい友を離れさせる。

噂話が原因で誤解が生じ、友情に亀裂が入ったという例はたくさんあります。このようなことをする人は、人間関係をこじらせ、怒りや恨み、悲しみを引き起こすことしかしません。

残念ながら、噂話の得意な人がいて、そのような人は他人の人生をめちゃくちゃにする機会を狙っています。そのことを直接問いただしても否定し、言い訳したり正当化したりしようとします。

自分の非を認めず、責任転嫁しようとしています。また、この罪の深刻さを軽視します。「ただ兄弟姉妹に相談してお祈りしてもらおうと思っただけ」と言って、自分のしたことをなかったことにしようとする人もいます。

そのような人には気をつけましょう。「〇〇さんのかくかくしかじかのことについて祈ってくれますか」と言って近づいてくる人には気をつけましょう。騙されてはいけません。それは、クリスチャンの噂話に過ぎないのです。

**箴言 6:16** 【主】の憎むものが六つある。いや、主ご自身の忌みきらうものが七つある。

**箴言 6:19** (6つめ) まやかしを吹聴する偽りの証人、(7つめ、つまり主ご自身の忌みきらうもの) 兄弟の間に争いをひき起こす者。

ひとつのできごとでも、見方によってまったく違った話になることを覚えておきましょう。聞いたことは真に受けず、見たことも半分しか信じないようにしましょう。誰かのことで本当のことを知りたいなら、直接本人に聞きましょう。

例えばAさんが他のBさんのことについて話してきたら、話の真偽をBさん本人に確かめてもよいか聞きましょう。そして、その話をAさんから聞いたと言ってもいいか尋ねましょう。みんながこうすれば、噂話はずいぶん減るでしょう。

いつか特別集会をして、他の人のことをどんなふうにも話しているか隠し撮りした音声をずっと聞くことにしたら、どうなるでしょう。私たちは皆、そのような不和の一因にならないよう、心と舌を見張らなければなりません。

実際、OICの「Lift」祈りの奉仕ガイドラインはこのことについて言及しています。

8. 教会内に祈りを使って兄弟姉妹間に不一致の種をまくべく(箴言6:19, 16)、噂話をする者、中傷する者(箴言26:20)がいることを認識する必要がある。そういうわけで、祈りを求める人が、他人について名指しで話し始めたなら、不一致の種の被害をこうむる前に話を中断させるべきである。祈りの前後どちらかに、みことば(マタイ18:15-17)をもって励ますか、牧師に相談することを勧めるのが望ましい。

噂話や中傷は、キリストの体に対する重大な罪です。

**箴言 21:23** 自分の口と舌とを守る者は、自分自身を守って苦しみに会わない。

私たちは口を慎み、噂話という罪深い行為を避けましょう。私たちの肉の思いを主に明け渡すなら、正しい行いができるよう、神が助けてください。

ローマ人への手紙一章で、パウロは人類の罪深い性質と不正について明らかにします。神の真理を阻む人々には神の怒りが注がれていると語ります。人々が神の教えと導きに背を向けたことで、神はその人々を罪深い性質に引き渡されました。その罪には、噂話や中傷も含まれています。

**ローマ 1:29-30a** 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪くみとでいっぱいになった者、**陰口を言う者、そしる者**、神を憎む者。。。

この箇所から、中傷と噂話がどれほど深刻な罪であるかがわかります。また、神の怒りを受ける人々の性質であることもわかります。

最後に、口を開くべき時に黙っているのはどうでしょう。

AさんがBさんについて根も葉もないうわさをしているところに、Cさんがいます。Cさんは、それが本当ではない、少なくとも未確認の情報であると知っています。しかし、Aさんを恐れてか、嫌われることを恐れてか、何も言わないまま噂の火を消さず、罪の一端を担いでしまいます。

**ヤコブ 4:17** こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です。

これは、怠惰の罪と呼ばれます。これについては来週さらに詳しくお話します。

**ヤコブ 3:10** 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。

パウロはこう書きました。

**エペソ 4:29** 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。

アメリカが懐かしいと思うことはたくさんありますが、懐かしいとまったく思わない部分は、悪い言葉です。悲しいことですが、アメリカでは多くの人が下品な冗談を言ったり汚い言葉を使ったりします。久しぶりに帰国してそのような言葉を聞くと、身の縮む思いです。そういうものを耳にしなくなったからです。言うまでもなく、このような話し方はクリスチャン生活にふさわしくありません。

パウロはこの個所に続き、悪い例以上に良い例を強調します。

「ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」

パウロはこうも語ります。

**コロサイ 4:6** あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります。

**コロサイ 3:16** キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。

話し方も内容と同様に大切です。

**箴言 15:1** 柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。

**ヤコブ 3:11** 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるのでしょうか。

ヤコブ 3:12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

つまり、私たちの舌に矛盾が見られます。他のものには見られないことです。同じ口から神への高らかな賛美と人への恐ろしい呪いが出るのです。

皆さん、わかっておいてください。自力では自分の性質を変えることはできません。自分の心を自分で変えられません。だから私たちは自分の舌を制御できないのです。けれども、私たちが求めるなら、神はそれがおできになります。

神は私たちが聖霊に明け渡せるよう助けてくださいます。私たちが自力でできないことをしてくださいませ。これこそ、舌を制御する力です。

怒りにまかせて言うべきでないことを言ってしまい、後で後悔したことはありませんか。その言葉をなかったことにできたらよいのにと考えたことはありませんか。反対に、何らかの理由で、言うべきだったのに言わなくて後悔したこともたくさんあるのではないのでしょうか。励ましの言葉、愛情表現、赦すという一言、慰めや希望を与える言葉などです。

こんなふうに考えてはどうでしょう。自分の大切な人にもう二度と会えないとしたら、なんと言うのでしょうか。たくさんの方が、ちゃんと相手に気持ちを伝えられなかったことを後悔しています。さよなら、ありがとう、ごめんなさい、もう怒っていないよ、愛してる、などの言葉です。

明日が来ることを約束された人間は一人もいません。だから、明日まで待たないでください。思い立ったら吉日です。今日は父の日なので、とくにそうです。

私の父は10年ほど前に亡くなりました。父は理想の父とは言えませんでした。母に暴力をふるう人でした。父に殴られて母の前歯は折れました。父の暴力で頭を自宅の壁にぶつけられ、母が三日間意識不明になったこともあります。私が4歳くらいするとき、母は4人の子供を連れて家を出ました。母は子育て支援も受けず、女手一つで私たちを育ててくれました。

それから何年も経って、私はクリスチャンになりました。マタイにあるイエスのことばを読んだのを覚えています。

**マタイ 6:15** しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

すぐに父のことが頭に浮かびました。そして、神が私に語っておられることが何かはっきりとわかりました。

父を赦さなければならないのです。

簡単ではありませんでしたが、父が亡くなる前にそうできて本当によかったと思います。私だけでなく、母も父を赦したのです。

長年酒にひたっていたせいで、父は肝硬変を患い、余命いくばくという状態でした。そんなとき、母が父を訪ね、こう言いました。「ジョニー、あなたに知ってほしいの。イエス・キリストは私を赦してくれたの。私もあなたを赦すわ。」

私たちの言葉は、人を生かすことも殺すこともできます。自由にすることも縛ることもできます。

これが、その日私の母に起こったことです。母は、それまで長年背負ってきた恨みや苦しみのすべてから解放されました。

あなたを傷つけた人がいますか。あなたがその人たちを赦すことをイエスは望んでおられます。もう水に流しましょう。それは自分のためです。

誰かを傷つけたことがありますか。もしまだ手遅れでないなら、謝りましょう。

もうその人が亡くなっていて手遅れだという場合は、神に赦しを求めましょう。そして、そのことを過去の出来事として受け入れられるよう助けていただきましょう。

誰に対しても恨みを募らせないと固く決心し、今日、自由になりましょう。

**ヤコブ 3:13** あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。

ヤコブ 3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。

苦いねたみや敵対心を持っている人は容易にわかります。こういう人は、常に自慢したり、本当のことを曲げて話したりします。

そういう人には気をつけましょう。

教会でもそういうことを耳にします。クリスチャンの中には、そんなことをしていると自分では気づかずにしている人もいます。神が何か良いことをしてくださると、そうなるように自分が祈ったから神が答えてくださったのだ、と声を大にして言い、自分の手柄にしようとしみます。

もちろん、誰かのために祈っているなら、そのことをその本人に知らせてもかまいません。また、神が祈りに答えてくださったと主をほめたたえるのも良いことです。けれども、神のみに誉れをささげるよう気をつけましょう。神がしてくださったことを自分の手柄であるかのように自慢してはいけません。

**ヤコブ 4:16** ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。

パウロも誇るることについて多くを語りました。以下はその一例です。



**2コリント 12:6** たとい私が誇りたいと思ったとしても、愚か者にはなりません。真実のことを話すのだからです。しかし、誇ることは控えましょう。私について見ることに、私から聞くこと以上に、人が私を過大に評価するといけないからです。

**ガラテヤ 6:14** しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。

先ほど言ったように、私が祈ったからだと自分の手柄を自慢する人がいるでしょう。しかし、祈りについてイエスはこうおっしゃいました。

**マタイ 6:5** また、**祈るときには**、偽善者たちのようであってははいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

マタイ 6:6 あなたは、**祈るときには**自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられる**あなたの父が**、あなたに**報いてくださいます**。

報いは天の父から来るのです。褒められるべき点を自ら主張してはいけません。そうすると、自画自賛することになり、受ける報いを人の褒める言葉に限定してしまうからです。

**ヤコブ 3:15** そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。

苦いねたみや敵対心といった知恵は、神からのものではなく、この世と肉と悪魔から出たものの特徴です。

**ヤコブ 3:16** ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。

13節でヤコブはこう言いました。

**ヤコブ 3:13** あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。

地に属し、肉に属し、悪霊に属する知恵とは対照的に、神の知恵は柔和な行いと良い生き方によって示されます。

ですから、生活に争いが絶えず、常に混乱しているなら、またはこの人あのひとについて、あれこれについて常に愚痴ばかり言っているなら、私たちが持っているその知恵は神からのものではありません。

**ヤコブ 3:17** しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。

神の知恵とこの世の苦々しい知恵はこれほどまで違うのです。この世の知恵は常に自己の満足を追い求めます。神の知恵は愛と献身に満ちています。神の神聖さに則ったものです。

**ヤコブ 3:18** 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

今、恨みで心をいっぱいにならないでください。神に罪の赦しを求め、神との平和を得ましょう。人を赦し、人に赦しを求め、人との平和も得ましょう。

イエスはこうおっしゃいました。

**マタイ 5:9** 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

使徒パウロの祈りで、締めくくりましょう。

**ピリピ 1:9** 私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、

ピリピ 1:10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、

ピリピ 1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現されますように。